

学校目標			重点目標				
1 学校におけるあらゆる教育活動を通して、社会的資質の向上、キャリア能力の育成、個性の伸張を図り、真に豊かな教養と実践力を持つ社会人の育成を目指す。 2 学力を保証し、人間的成長を保証し、進路を保証する高校を目指す。			1 専門分野を学ぶ意欲の醸成と基礎学力の定着 2 豊かな心から生まれるビジネスマナーの育成 3 地域社会を愛し活躍できる人づくりと進路の保証				
			今年度の重点目標				
			1 生徒の心を丸く、豊かに育てます。 2 生徒が「実社会で信頼される人間」として自立し、進路実現を果たせるよう努めます。 ① いじめ・暴力のない「安心・安全」な学校をつくります。 ② 授業を大切に、生徒の基礎力と専門性を伸ばします。 ③ 他者と協働し、地域に貢献することができる人材づくりを進めます。 ④ 生徒に、見通しを持たせ、わかるように伝え、共感的に関わるように努めます。 ⑤ 時間を守り、時間を有効に活用することができる生徒を育てます。 ⑥ 身だしなみを整え、あいさつと清掃を進んで行う生徒を育てます。				
総合評価	[成果と課題] - コロナ禍により学校行事や授業内容等変更を余儀なくされたが、各分掌において創意工夫を行って教育活動を行った。8月下旬から2週間程度、オンライン授業に取り組み、一定の効果と課題を発見することができた。次年度以降も感染症予防に留意した教育活動を充実させていく必要がある。 - 次年度の新教育課程の実施を踏まえ、新たな学びの方法や、評価方法、授業内でのタブレットの導入等、係を中心に検討・対応した。更に研鑽を深め、今後の教育活動に生かしていく必要がある。 - 生活指導係を中心に、毎朝の遅刻指導・服装指導により、多くの生徒が「社会性を身につけていく必要がある。しかし、一部の生徒の服装面の乱れに対して継続的に指導を行っていく必要がある。 - 特別な支援を要する生徒に関する情報を職員間で共有することにより、生活面・学習面の支援が行い易くなった。支援を要する生徒は年々増加傾向にあるため、更なる支援体制の強化が必要である。 - SPH後継事業はコロナ禍により限定された範囲での実施となったが、引き続き地域との連携を深め充実した取り組みを行っていく。生徒が主体となって取り組みができるように教員の指導体制の充実も図る必要がある。			[改善策・向上策] - 新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中において、生徒や教員が感染しないように注意を払い、よりよい教育活動や学校行事が開催できるように取り組んでいきたい。 - 全ての生徒が自ら学んで行動する姿勢を育てられるよう、今後も一層の研鑽が必要である。 - 生活指導の対象となる生徒は固定化されており、担任・学年と連携し、遅刻や服装の指導、学習活動への取り組み等の改善指導を粘り強く行っていくことが重要である。また、家庭とも緊密に連携を図り、協力して生徒の指導に当たることが必要である。 - 特別な支援を要する生徒が学校生活を円滑に行えるよう、職員間の情報共有やSC等外部との連携を強化し、よりよい支援・指導方法を充実させることが必要である。 「地域人教育諏訪」という地域連携の仕組みを活かし、生徒が主体的で探究的な学びが行えるように今後も指導内容の研究を行っていく必要がある。商業科・服飾科の連携をさらに深め、チーム諏訪実として校内体制の充実とノウハウの継承が必要不可欠である。			
	領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度	改善策・向上策
教育活動	I 生徒指導 ・生活指導係 1学年 2学年 3学年	1 社会的資質・規範意識の向上	・安心・安全な生活環境の整備 特に、いじめ・暴力の未然防止と、慎重・毅然な対応	・いじめの事案、人間関係のトラブルが何件か発生したが、関係部署と連携を図りながら対応を進めた。		○	・生徒の様子、アンケートの実施、職員間の情報共有を密に行い、関係部署と連携を図りながら暴力・いじめの未然防止に努めていく。
			・交通法規を遵守し、交通安全意識の向上	・クラス単位で交通安全教育を実施し、交通安全意識の向上に努めた。交通マナーについては、住民から自転車の並列走行について苦情電話が寄せられることがあった。		○	・引き続き、職員による立番、HRでの呼びかけや交通安全教育を実施していく。また、生活委員会の活動を支援し、交通事故の防止、マナーの改善を目指していく。
			・法律・校則を遵守する意識の向上 規律と秩序ある生活態度の育成	・規範意識をもちながら学校生活を送っている生徒も多いが、一部にゴミの投げ捨て、マナー違反、言葉遣い、モラルの面で課題が見られる。		○	・学校におけるあらゆる教育活動において、全職員による統一した指導を行っていきたい。
			・マナー向上の促進 節度ある学校生活と地域からの信頼の構築	・中庭へのごみの投げ捨て、ガムの吐き捨てが多々見られた。また通学路にゴミが多いという住民からの声も寄せられた。		○	・HRでの呼びかけ、職員による通学路の見回り、または生徒による奉仕活動等を進め、マナーの向上を図りたい。
			・倫理観・道徳観の向上を呼びかける				
			・挨拶・身だしなみ・時間を守る指導の重点化 全職員による同一歩調の指導	・頭髮改善対象者は昨年度に比べて増加傾向、ピアス・遅刻者数は減少傾向。スカート丈の短さ、冬期のジャージ、パーカー、トレーナー着用については依然として大きな課題。		○	・生徒・職員・保護者による制服や身だしなみについての話し合いを進め、三者の共通理解のもとで改善を図っていくことが必要。
		2 健全育成	・人権を守る土壌の育成 他者への配慮ができる生徒の育成 ・スマートフォンの適切使用について、定期的な指導	・SNS関係のトラブルは減少傾向だが、1年生の1学期にトラブルが多発。学校が把握し、対応したトラブルは氷山の一角である可能性もある。		○	・外部講師を招いての講演会に加え、クラス、教科、クラブ活動などあらゆる教育活動の場面において継続的に指導をしていくことが必要。
			・生徒との対話の尊重 問題行動の未然防止・早期解決	・職員から生徒への声掛けにより問題行動の未然防止、深刻化の防止を図ることができた事例は多くあった。		○	・生徒の様子の観察、対話を重点に置きながら、職員間での情報の共有に努め、問題行動の未然防止と早期解決に努める。
			・学年・クラス担任と連携し、生徒・保護者の心情・背景を踏まえた適切な問題行動への対応	・身だしなみについて、クラス担任と連携しての指導に課題が残った。		○	・係と担任、さらには保護者と密に連絡を取りながら、連携した指導を進めていきたい。
			・指導の定着を図る事後指導	・声かけや面談、学年・特別支援と連携を図りながら、事後指導を進めた。		○	・生徒の様子を注意深く見守りながら、指導の定着、問題行動の再発防止に努めたい。
			・生徒会活動との連携による、指導効果の向上 特に身だしなみの改善	・科ノ葉祭における身だしなみ確認などは生徒会と連携しながら実施したが、日常の学校生活における身だしなみについては連携が行えなかった。		○	・校友会、特に生活委員会を中心に、身だしなみの改善に向けた活動を支援していきたい。
			・アルバイトへの対処の推進 本校生徒としての自覚を促す 許可生徒への指導の充実	・無断アルバイトの指導があった。許可を得ずにアルバイトを行っている生徒が見られる。		○	・無断アルバイトがないように指導を行うとともに、アルバイト実施者に対しても、学校生活に影響が出ないように指導を充実させていきたい。
	・教育相談係	3 相談と支援	・支援を要する生徒の把握に努め、情報を全職員が共有し、組織的に支援できたか。	・生徒情報の職員間共有を強化した。配慮欠如による大きなトラブルは報告なし。 ・係と担当・顧問との連携充実にも努めた。連携して対応できた。 ・本年度の係への相談状況。 1年 男子1名、女子11名、延べ28回 2年 男子13名、女子8名、延べ59回 3年 男子2名、女子10名、延べ42回 ・相談室を拠点に生活する状態になった生徒は7名。対応職員と場所が不足。		○	・配慮すべき生徒情報は職員に行き渡るよう引き続き努力する。 ・情報共有については重要視し、今後でもできる限り丁寧に行っていく。 ・相談室拠点は教室に戻れるように最善を尽くしたが、期間が長くなる生徒が数名出てしまった。 ・相談係のみならず、多くの先生が生徒の相談に耳を傾けアドバイスもいただけてきたことに感謝しています。

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
	・ 平和人権係 ・ 保健係 ・ 整美係 ・ 校友会係		・ 専門機関との連携も密にし、関係諸機関や外部機関とも連携して支援できた。	・ スクールカウンセリングは現在まで100h。1年5名7h、13名29h、3年6名15h、定時13h、保護者5h。コンサルテーション等27h。 ・ カウンセリングのコンサルテーションには今年度は担任の先生も参加。有意義だったとSCより評価いただいた。 ・ 医師の協力を受けたケースが1件。 ・ 諏訪市の「子ども課」の協力をうけたケースが2件。		○			・ 最少回数になるようにカウンセリングを実施してきたが、配当時間が不足。 ・ 来年度もコンサルテーションには担任の先生に都合のつく範囲で参加願う。 来年度も外部関係機関にも積極的に支援の協力をお願いしていく。
			・ 全職員が生徒の様子に対するアンテナの感度を高め、対話を重んじ、トラブル未然防止に努めたか。	・ クラス、クラブ、授業等の活動の中で担当職員が生徒とよく対話をして対応していただいているケースが多い。 ・ 生活アンケート、アセスを有効利用するように努めた。 ・ 学年会の際に情報を収集した。		○			・ 今後も生徒との対話を重んじていく。 ・ 生徒のことを気軽に相談できる職員集団を維持、進化していく。 ・ 校内アセス研修会を開催予定。
		4 人権意識と仲間づくり	・ 人権意識に基づく学級経営 ・ 人権感覚の定着と向上	・ 道德教育計画の見直し		○			・ 道德教育計画は昨年度と同様。変更せず。・コロナ予防の為映画を教室で視聴。来年度も講演会か映画会を安全に実施したい。
		5 健康・安全教育	・ 健康・安全教育の充実 ・ 生徒及び職員の健康支援 ・ 感染症予防と環境衛生の推進	・ コロナ予防		○			・ 第6波でレベル上昇、意識向上と対策が大切な現状。今後も黙食や各部屋の換気・除菌などに注意したい。
		6 校舎内外の美化の推進	・ 進んで清掃に取り組む意識の構築 ・ 校内清掃徹底のための職員の監督・指導 ・ ゴミ分別の徹底 ・ 整美委員会の自発的取り組みの支援	・ 一部、清掃にきちんと取り組みない生徒もいたが、全体として生徒たちの清掃への意識を高めることができた。		○			・ 引き続き毎日の清掃の中で、生徒の美化意識を高めるよう心掛ける。
		7 自主活動の促進 校友会活動の充実	・ リーダーの育成と自主的で組織的な活動 ・ 委員会活動の活性化 ・ 校友会行事・文化祭の質的向上	・ 委員があまり動いていない。コロナ禍における文化祭は工夫し、様々な事が出来たが、日程のやりくりが困難であった。		○			委員にも任務を与えるようにしていく。
		8 クラブ活動の充実	・ 加入促進と各部の活発な活動 ・ 各種大会、コンクール参加に対する支援	・ クラブ説明会は資料や説明のみとなったが加入促進には繋がった。壮行会は計画のみ。		○			不織布マスク着用したり距離を取ったりすることで何かしら披露するものを取り入れた。
	教育活動	Ⅱ 進路指導 ・ 進路指導係 1学年 2学年 3学年	1 進路意識の高揚および早期確立 (1)自己理解を深める (2)職業観を確立する (3)自己の将来を展望する (4)進路を吟味する (5)社会参加を促す	・ 進路講演会、校内外ガイダンス・説明会、個人面談を通じ、学年に応じた進路意識の確立 1年生 進路意識の高揚および情報収集 キャリアデザインに向けた自己理解 諏訪実ミニメッセ、インターンシップ、経営者と語る会、経営者ジョブシャドウによる地域産業理解 2年生 進路の方向性の決定 インターンシップの活用 諏訪実ミニメッセの活用 経営者と語る会、経営者ジョブシャドウによる地域産業理解 オープンキャンパスの活用 諏訪圏工業メッセへの参加		○			・ 3月に1・2年生の希望者対象に「経営者ジョブシャドウ」を実施する予定である。さまざまな体験を通し、本校のGRAND DESIGNにも位置付けられている「地域社会と直結することで、即戦力の社会人として成長する！」の足掛かりとしていく。
		2 進路保障	・ 個人の興味、能力、希望に応じた進路選択と実現 3年生 本人および保護者の納得した進路選択 (進路希望とその実現)	・ 3年生では、諏訪商工会議所様のご協力のもと、5月に「企業勉強会」、7月に「企業説明会(72社参加)」を実施した。 ・ 応募前企業見学では、企業とのミスマッチを少しでも減らすために、1人2社以上の見学を行った。		○			・ コロナ禍で就職試験について、オンライン面接・Web試験を採用した企業が複数あった。対面での試験と同様に、対応を考えていく。 ・ 進学については、学校推薦型選抜・総合型選抜ともに基礎学力試験を科す学校が増えてきている。普段の授業を基盤に、ペビステや基礎力診断テストを活用し基礎学力習得を目指していく。 ・ さらに検討を重ね、改善を行っていく。
		Ⅲ 学習指導 ・ 教育課程委員会 ・ SPH後継事業(地域人教育・諏訪)推進委員会 1学年 2学年 3学年	1 21世紀型学力の養成 教育課程の検証 新教育課程に向けた授業の取組	・ 科目指導法の研究と実践 ・ 学習理解度の把握と定着への継続的指導	・ 進路に合わせた科目が選択できるよう、現行の教育課程の3年次の選択科目の編成を見直した。		○		
		2 基礎学力の定着	・ BabyStep(ドリル)の活用 ・ (集中力を高める)読書週間の充実 ・ 家庭学習の習慣づけ	・ 一般常識・国・数・英のBabyStepドリルを実施。 ・ 基礎力診断テストの実施後、各学年・教科で分析検討会を実施した。(7月)		○			・ BabyStepに向けた生徒の意識向上を図るようにしていく。
		3 意欲・関心の喚起と観点別評価	・ シラバスの検証と授業改善 ・ 観点別評価の実践研究 ・ 授業態度、授業に臨む姿勢の指導	・ 観点別評価の実施に向け研究しシラバスの作成を行った。 ・ 授業充実のためのアンケートを7月末、年度末に実施し、授業の充実に向けた意見を全ての生徒から集めた。		○			・ 授業アンケートを受けて改善点を研究し、授業のさらなる充実を図っていく。
		4 SPH後の地域との連携	・ 地域文化・伝統に関する講演会 ・ 文化ビジネス研究における実践 ・ 地域課題についての発表会	・ 地域の識者の方に講演、講義、活動への協力をいただき地域の文化・伝統への関心が高まった。		○			・ 地域課題に対して取り組みができてきている。外部への報告など充実を図って、連携を深めていく。

領域	対象	評価項目（具体的活動目標）	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
学校運営	Ⅳ 専門科 商業科 会計情報科 服飾科	1 専門教育の改善・充実	・専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 ・進路希望に即した学習構成と学習支援	<商業・会計情報科> 日頃の授業を大切に取り組む姿勢の定着 <服飾科> ・感染症対策を徹底し学習成果発表会を開催 ・リモート講習など、社会人講師による講習を実施	○				<商業・会計情報科> 多様な生徒の能力に応じた授業の展開・講座編成・補習設定の検討 <服飾科> ・あらゆる感染症対策を取った上での開催だった。今後も従来通りに捕らわれず、実施方法を検討していく。
		2 資格取得の促進	・進路実現に向けた受験指導	<商業・会計情報科> ・検定前補習週間を設定し商業・会計情報科が一つとなり資格取得に向けた学習に取り組む意識付けを行った。 <服飾科> ・各種検定に積極的に取り組み、補習や対策講座等の支援を行った。家庭科技術検定1級2冠11名取得	○				<商業・会計情報科> ・目的意識を明確に持たせることによって生徒の意欲を引き出し、学習に取り組ませるようにする。 <服飾科> ・個々に応じたきめ細かい支援をしていく。
		3 地域との連携	・各種取り組みの継続と発展 ・諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業	<商業・会計情報科> ・マーケティング・商品開発・文化ビジネス研究等の授業で地域と連携した活動が展開できた。 <服飾科> ・諏訪市ものづくり科の取り組みはすべて中止 ・岡谷市シルク推進事業に参加、シルクのドレス制作	○				<商業・会計情報科> ・新教育課程の商業科の特色としていく、長期インターンシップ(デュアルシステム)構築に向けた準備 <服飾科> ・コロナ禍でも実施可能な取り組みを検討する。 ・今回はすべて授業外で実施。授業内でどのように取り組めるか検討 ・新型コロナウイルス感染症による行事内容の変更、年間行事計画の変更等を各部署と連携をとりながら行っていきたい。
	Ⅰ 教務係	1 学校活動全般の企画・運営	・日常業務運営のための関係部署間の連絡調整及び情報収集	・新型コロナウイルス感染症に伴う休校等に対応し、行事計画などの変更に柔軟に対応することができた。	○				・システム手帳は次年度に向けて製作中
			・業務の整理・改善と新規企画(反省委員会の充実) ・PTA活動の精選	・全校生徒・職員が利用できるシステム手帳の作製に着手した。 ・反省委員会は1月19日より実施し、次年度の事業へ活かしていく。 ・新型コロナウイルス感染予防のため、PTA総会や理事会は書面決議とした。役員の選出方法の変更を検討している。		○			・保護者の緊急連絡メールについては引き続き加入を呼びかけていく。 ・コロナ感染予防のためのオンライン授業を行ったが、全校生徒のアンケートではとても好評で、非常に学習効果が上がっていることを確認できた。今後も様々な事態に対して、臨機応変に対応したい。
			・緊急時等の適切な情報把握と対応(緊急メールの活用)	・緊急時の生徒連絡はクラスルーム、保護者連絡はメールを通して連絡を行っている。保護者メールの加入率は増加傾向にある。		○			・毎日の連絡掲示板の確認と、出欠席の入力について、職員の意識を高くしていく。
			・校務支援システムによる情報の共有(月歴、施設予約、生徒の出欠席、成績)	・係が中心になり、年度初めに設備を整え、全職員が情報を共有することに役立っている。		○			・今後も必要な研修については、日程や場所等の調整を各部署と行っている。
		2 職員研修の充実	・研修内容の精選 ・研修会の設置と支援	・ICT研修会(8/4)、CAP研修会(12/24)、ロイノート研修会(1/27)を各部署で企画し、支援をした。			○		・学校案内は次年度以降も、同時期に作成し、地区内の全中学生に配布できるようにしたい。また学校要覧も同時期の完成を心掛けたい。
			3 広報活動の充実(開かれた学校づくり)	・学校案内・学校要覧の発行	・休校期間等もあったが、例年通り、5月中旬に完成することができた。学校説明会等を通して、諏訪地区の全中学3年生に配布した。			○	
		・HPの充実(更新)		・情報係と連携し、随時HPの更新を行った。			○		・緊急メールとHPにより、保護者への情報発信の機会を増やしていきたい。
		・保護者等への情報発信(PTA連絡網とHP)		・保護者懇談に合わせて「諏実通信」を発行した。また、授業公開等の連絡をHPを通して行った。			○		・6/10の公開授業の学校説明会は、会場が暑すぎるのが問題として挙げた。気候や感染状況に配慮しながら、会場については検討したい。
		・学校開放事業の周知と充実(中学生体験入学) (授業公開)		・新型コロナウイルス感染予防のため、4月のPTA総会の日の授業参観は、実施できなかった。 ・6/10、10/29に公開授業を行い、昨年並みの参加者があった。日程の見直しや、学校説明の手法の改善など行い、参加者にとってより有意義な会を運営することができた。 ・8/31に体験入学を行った。今年度から部活動を自由参観できる形にした。また、全員配布のクリアファイルについては外部委託することとした。			○		・公開授業時の学校説明会は、今年度まで保護者対象として、実施していたが、中学生の参加希望者が多いため、次年度以降は生徒も対象としたものとする。 ・保護者や生徒へのアンケートからクリアファイルについては大変好評だったので、次年度以降も続けていきたい。
Ⅱ 学校評議員会		1 本校の課題の共有と認識	・課題の整理と各分掌への報告	・今年度から年間2回の開催となった。(6月と2月)			○		・各部署で年度末評価をまとめ、次年度の事業に向け意見を頂く。 ・地域の方々の意見をより多く集めるために、教員の参加者については今後精選していく必要がある。
	Ⅲ 地域連携 ※商業・服飾以外	1 近隣へのボランティア	・環境美化の推進・整美委員を中心に学年(学級)単位で通学路のゴミ拾い・除草を行う。(整美係)	・各学年ごとに計画して行ったが、コロナ禍のため、開催できない学年もあった。			○		・来年度はコロナの状況を見ながら計画を立てていきたい。
・交通・生活・行動困難者への配慮と協力警察・ボランティア団体との連携活動(防犯登録・施設調査と改善呼びかけ)(生徒指導)			・警察官に來校していただき、特殊詐欺、性被害、薬物乱用についてお話をしていただいた。			○		・警察やボランティア団体と生徒の健全な育成にむけて、引き続き協力・連携を図ってきたい。	
2 高校大学等との連携		・関係大学との研究協議・実践 ・授業体験によるインターンシップ	夏季・春季休業中に、大学の授業を体験する「松大チャレンジ」を計画していたが、コロナ禍で中止した。				○	・来年度は、1・2学年の希望生徒対象に、「松大チャレンジ」を計画し、高大接続に向けて、進路意識の高揚を図っていく。	
3 企業との連携		・インターンシップ、諏訪実ミニメッセ、経営者と語る会、経営者ジョブシャドウ等の推進(進路) ・企業勉強会、企業説明会の推進(進路) ・採用担当者の講演会(進路) ・内生生徒と採用担当者との面談(進路)	・諏訪商工会議所様を通して、インターンシップに協力いただける企業を募った。また、長野県中小企業同友会諏訪支部様のご協力を得て、諏訪実ミニメッセ、経営者と語る会を実施した。 ・12月に、内生者懇談会を実施した。社会人になるにあたっての心構え等、ご指導いただく良い機会となった。			○		・コロナ禍で、インターンシップを存続させていくために、諏訪商工会議所様、長野県中小企業同友会諏訪支部様、(株)つなぐ様等との連携を強化していく。	
		4 中学校との連携	・他地区を含む中学校訪問等(教務)	5月～7月に学校説明に諏訪管内の学校に伺い、11月の下旬に選抜についての説明で希望する学校に伺った。			○		・学校のことをアピールする大切な機会になるので、次年度以降も、コロナの状況等を見ながら、継続したい。